

# 常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年7月2日(金)

その2

## ◇ 常磐東の半夏生 ～桜紅葉～

今日7月2日は、暦のうえて【半夏生】。「はんげしょう」と読む。

聞き慣れない暦だ。本書を著す調べて初心得の半夏生。暦解説は以下のとおり。

【半夏生】:7月2日ごろ(2021年は7月2日)。夏至から数えて11日目。

梅雨の末期で、多湿で不順な頃。農家はこの日までに田植えを済ませ、どんなに気候不順な年でも、半夏生の後には田植えをしないという習慣があった。

とのこと。

【半夏生】を校内の自然と結び付けて記憶に残そうと、校地を巡っていて、大変興味深いものを見つけた。



来賓玄関から桜階段を臨む南西の方角。ぱっと見、いつもと変わらない景色である。

赤破線□の部分に焦点を合わせると、青空をバックに季節外れの【秋色】を見つけた。

ぐっと寄ったのが下の写真。ソメイヨシノの紅葉(こうよう)である。

調べてみると、こうした現象は特別なものではないらしい。

【桜紅葉(さくらもみじ)】と呼ばれる現象。

桜も多くの落葉広葉樹と同様に落葉前に葉の色を変える。中でもソメイヨシノが葉を紅色に変えるとのこと。

今は7月。落葉時期ではない。

しかしながら、こうした現象が起きる「おおよその察し」はつく。

昨年度から、ソメイヨシノをはじめとする校内樹木の幹や枝に付いた「ウメノキゴケ」の除去を行ってきたが、写真の梢部分は脚立等を利用して除去洗浄できなかった高所。枝先までウメノキゴケがびっしりと付着している。葉のつき方がよくないのもそのため。まるで枯れ木のように見える梢すらある。

無害との情報もあるが、【ウメノキゴケは樹木を弱らせる】のである。

葉があるときは気付かなかったが、落葉した冬季には、上米河内バス停の銘木や消防倉庫前の桜の幹にも「ウメノキゴケ」が群生しているのが確認できた。幸い、まだ枝先にまでは至っていないが、今後の対応を考えていく必要がある。